

日本時間生物学会第 27 回学術大会オンライン開催報告

桑 和彦[✉]

名古屋市立大学 大学院薬学研究科・薬学部 神経薬理学分野

2020 年度の第 27 回日本時間生物学会学術大会は、当初は日本睡眠学会第 45 回定期学術集会と合同で 2020 年 9 月 25 日から 27 日にパシフィコ横浜ノースで開催予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックで集会が制限されたため、合同大会の実行委員会は 2020 年度は中止とし、3 年後の 2023 年度開催を目指すことに決めました。そこで、時間生物学会理事会は、単独でオンライン開催を目指すことを決め、プログラム委員会の若手の有志を中心に実行委員会を作り、急遽、オンライン大会の計画を始めました。Slack を使って情報交換を進めながら、新たに決めた「若手が開くオンラインの世界」という文字通りの開催テーマの元で、手作りで準備を進めて頂いた結果、オンラインながら、ほぼ例年通りのプログラムで開催できました。最終的には、参加登録者 390 名、ポスター演題 77 題、シンポジウム 9 個、特別講演 2 題、奨励賞講演 2 題、総会と表彰式、さらに特別講演も兼ねた懇親会も開催しました。シンポジウムは、実行委員の Zoom アカウントを無料で使わせて頂くことで、全て通常の Zoom セッションとして行い、ポスターは Google ドライブ上に PDF ファイルで配置し、音声による説明と、個別の Zoom セッショ

ンへのリンクをつけることで、非常に見やすいものとなり、費用も最小限で行いました。特別講演は、初めて学会員のアンケートを行い、得票数が最多の Joe Takahashi 博士にお願いしました。講演は事前に録画して送って頂いたものを配信、その後、リアルタイム (日本時間の日曜朝、米国の土曜夕方) で質疑応答を行い、大変盛り上がりました。また、もう一つの特別講演は土曜夜に、飲み物・食事を片手に気楽な雰囲気、睡眠学会の大会長の柳沢正志博士にお話をして頂く懇談会形式として、夜遅くまで参加者との会話を楽しみました。こちらも米国からの参加者もいて、楽しい会となりました。コロナによる合同大会の中止にがっかりしておりましたが、予想以上に充実した内容で行うことができました。事後に行ったアンケートも非常に高評価で、録画・オンデマンド配信をなくしてオンタイム配信のみにした点を心配していましたが、その点についての苦情もほとんどありませんでした。短時間で全く初めての方式の準備をして頂いた実行委員の方々を列記しませんが、大会ホームページを、残してあります (<https://jsc270.wixsite.com/home>)。本当にありがとうございました。また、参加して頂いた全ての方に、深く感謝をいたします。

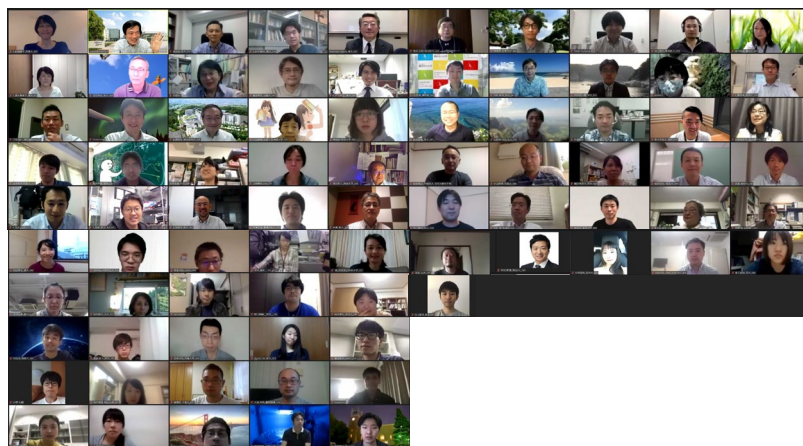


写真 大会 2 日目での集合スクリーンショット (個人名が映っていた方は個人情報保護のため除いております。)

✉ kume@phar.nagoya-cu.ac.jp